

令和4年度 新東淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(3年生)

【国語】

＜成果＞大阪府の平均点と比較して、本校の平均点は-3.3ポイントだった。得点分布図において本校の40～44点の集団が突出している。

＜課題＞学習指導要領の各観点の領域において大阪府の平均点を超えていた。特に比較的得点を取りやすい基礎的問題での正答率が低い。

【社会】

＜成果＞大阪府の平均点と比較してその差が-1.9ポイントとなっているものの、昨年度との差は+9.1ポイントと大幅に大阪府に近づいている。このことから、十分に対策ができたことや意識付けの成果が出ている。

＜課題＞特に評価の観点のうち「思考・判断・表現」での自分の考えを表現する力を向上させるため、授業内で意見交換や討論の場を設け、このまま同じような意識を継続させ、府対比との差が大きくならないよう維持する。

【数学】

＜成果＞大阪府の平均と比較して0.4ポイント上回った。平均無回答率も0.5ポイント低く、全国学力・学習状況調査に比べて、大きな改善がみられる。特に、基礎計算力、資料の整理については正答率が高かった。

＜課題＞下位層(平均の70%以下)の減少が、年度当初の目標を下回った。

【理科】

＜成果＞

本校の分布は、30点台と50点台が多く、70点台が少なくなっている。選択式(再認形式)の問題では、大阪府よりも無回答率が低くなっている。

＜課題＞

思考型の選択式問題や短答式(再生形式)の問題などの理解していないとできない問題では正答率が低くなっている。つまり難度が増すほどに正答率が下がっている状況である。また、記述式の問題について無回答が多いのは、大阪府の全体的な傾向である。

【英語】

＜成果＞平均点は大阪府と比較して、-2.1ポイントだった。「書くこと」の領域において、大阪府の正答率との差が大きく下回った設問が選択式、記述式ともに見られ、記述式においては無回答率も大阪府を大きく上回るものが多い。

＜課題＞「書くこと」の領域において、無回答率をみると30%を超えていた設問がある。また正答率については2割台しかない設問があり、書く力が備わっていない生徒が多いと考えられる。

【今後に向けて】

○中学生チャレンジテスト(3年生)

【国語】行書と楷書の違いについて、知識を養う授業を各学年で行っていく。漢字の小テストを今後も継続して実施していく。

【社会】授業規律を確保しつつ、生徒の学力向上に向けて授業改善を行う。具体的には、授業の中で基本的な知識をそのまま単語として教えるのではなく、知的好奇心を持たせる授業展開を行い、新聞記事の利用や時事ニュースを適宜取り上げ、生徒たちの意見の交換やディベートの場を設定し、自分の考えを表現する力を養う。

【数学】

出題傾向のはつきりした問題については事前に対策をしたことで効果が上がった。今後は下位層の生徒に焦点を当て、少しでも解ける問題を増やしていくことが必要である。

【理科】

重要語句がしっかりと記憶されておらず、意味が理解できていない部分が多い。基礎を徹底的に覚えて、その意味を考えて使いこなして問題の意味をしっかりと読み取る力が必要である。

具体的には、30点台の生徒には特に重要語句の徹底、50点台の生徒には学力を上げるために基礎を踏まえたうえでの問題演習を繰り返すことが必要である。

【英語】

語句や文法事項を正しく理解して英文を書くことに習熟させるために、基礎・基本を反復して使わせ英文を書かせる必要がある。